

## 【熱中症による救急搬送に関する統計】

例年、気温や湿度が徐々に上昇する6月頃から、熱中症による救急搬送が多くなることから、郡山消防本部では、熱中症の予防を呼びかけています。

特に今年は、新型コロナウイルス感染症の感染予防のためのマスク着用や、自宅で過ごす時間が多い生活となっている事から、例年以上に注意が必要です。

この度、過去5年間（2015年から2019年まで）の熱中症による救急搬送に関する統計を取りまとめたので公表します。

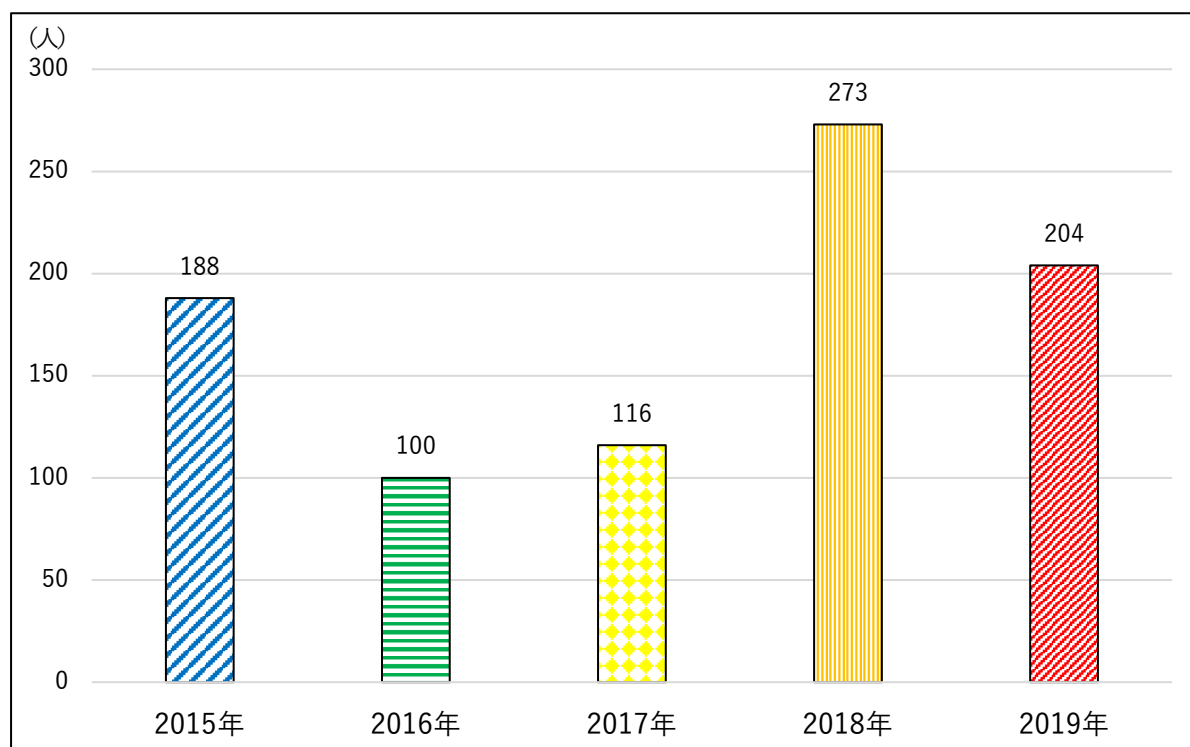
※ 小数点を含む数値は、小数点第二位を四捨五入しています。

### 1 救急搬送人員

郡山消防本部管内で、過去5年間（2015年から2019年まで）に熱中症（熱中症疑いを含む）により881人が救急搬送されています。（それぞれ6月1日から9月30日まで）

最も救急搬送人員が多かったのは2018年で273人、次いで2019年の204人と続きます。

2018年の救急搬送人員は、熱中症に関する統計を取り始めた2010年以降で最多となり、同様に2019年は2番目に多い搬送人員でした。

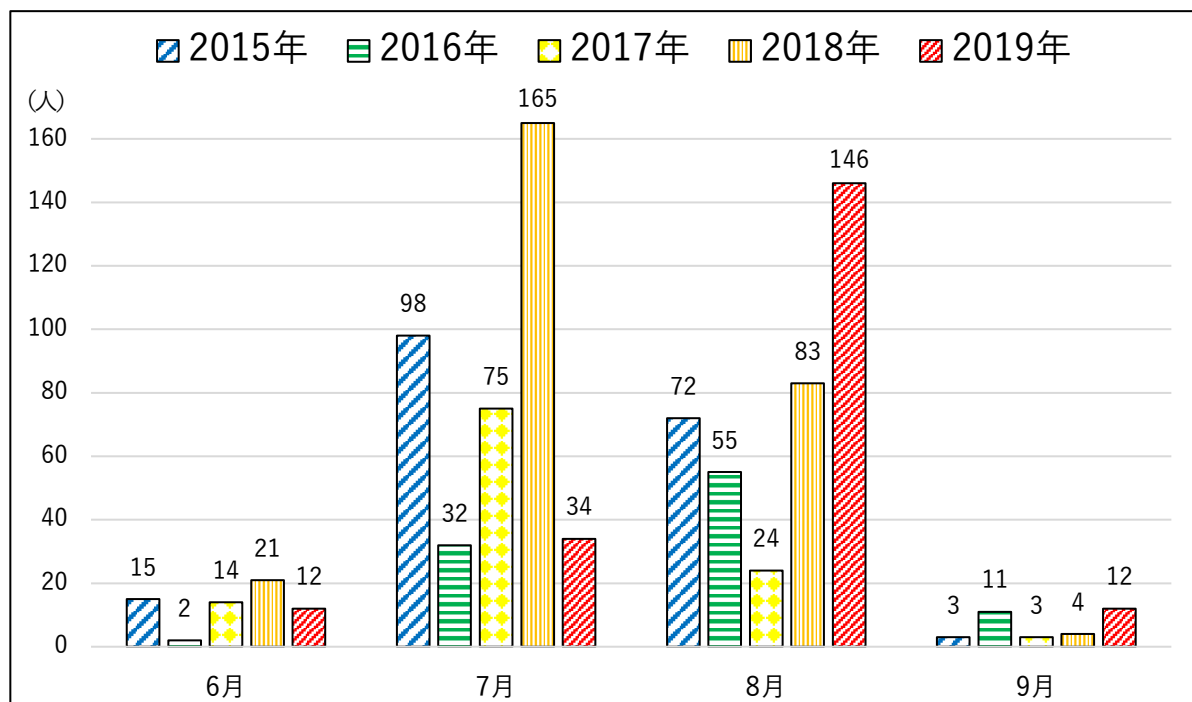


## 2 月別の搬送人員

救急搬送人員を月別にみると、7月が404人（45.9%）で最も多く、次いで8月が380人（43.1%）となります。

救急搬送人員の最も多い月は年によって7月の場合と8月の場合があり、これは梅雨明けの時期などが関連していると推測されます。

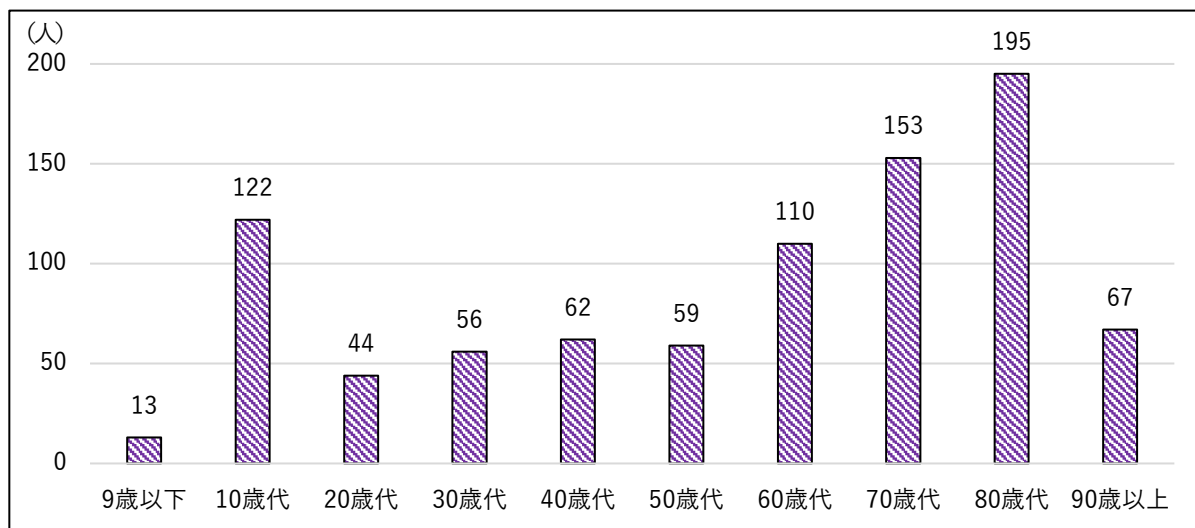
2018年は7月が165人で最も多く（8月は83人）、2019年は8月が146人で最も多く（7月は34人）になりました。



## 3 年代別の搬送人員

救急搬送人員を年代別にみると、80歳代が195人（22.1%）で最も多く、次いで70歳代が153人（17.4%）、10歳代が122人（13.8%）と続きます。

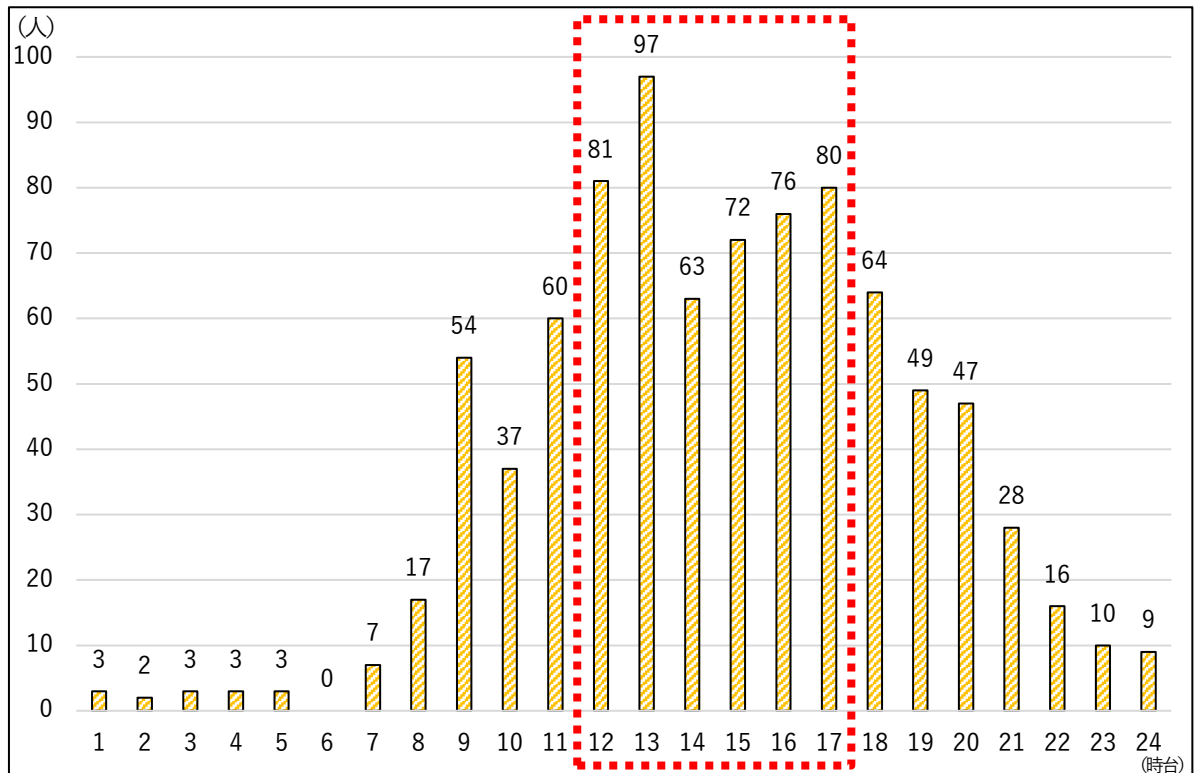
60歳代以上が全体の59.6%（525人）を占めています。（65歳以上で計上すると全体の54.0%（476人））



#### 4 時間帯別の搬送人員

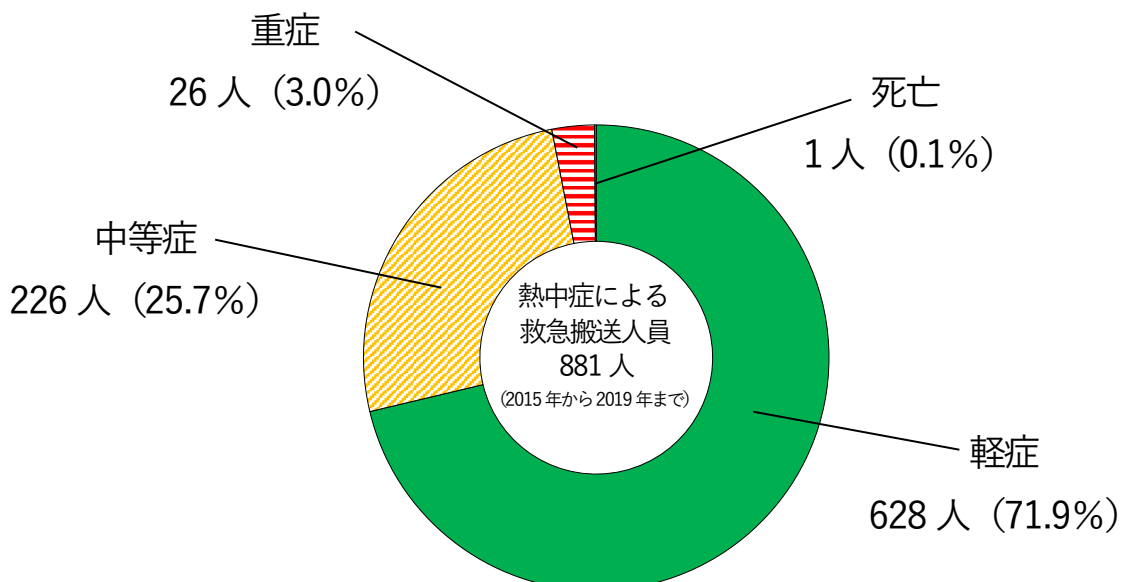
時間帯別の搬送人員をみると、13時台が97人（11.0%）で最も多く、次いで12時台が81人（9.2%）、17時台が80人（9.1%）と続きます。

特に12時台から17時台は469人（53.2%）と多くなっています。



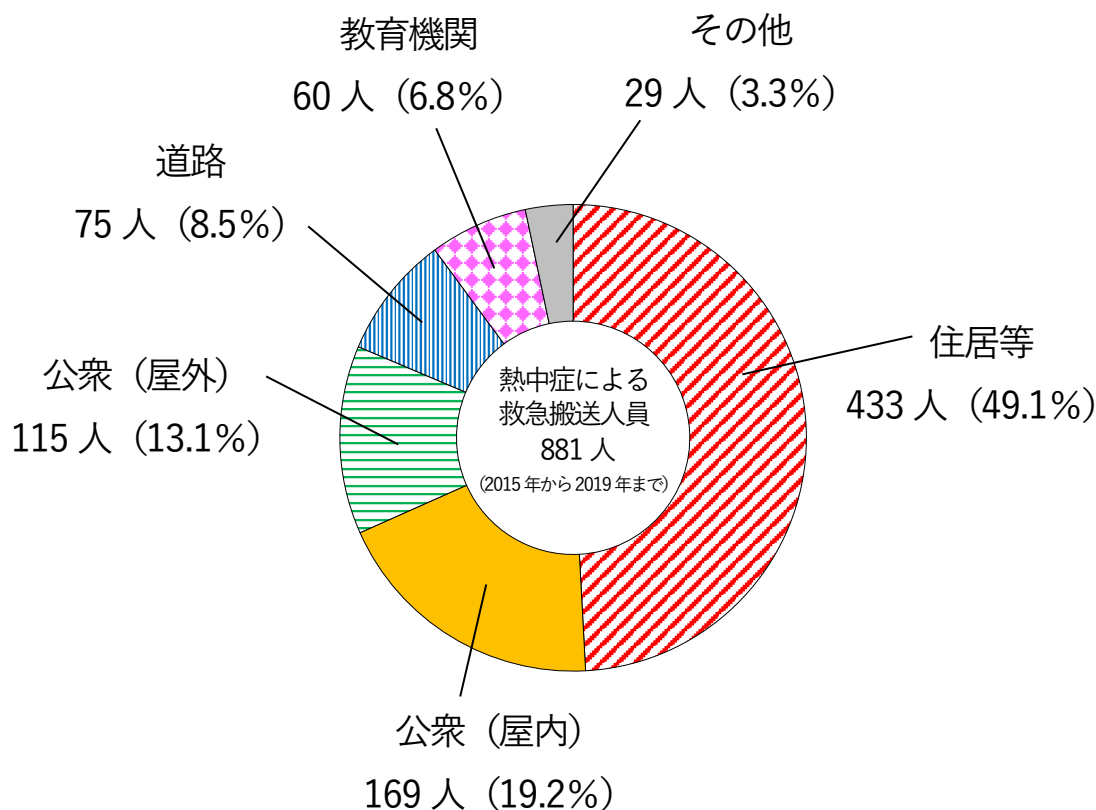
#### 5 初診時の傷病程度

救急搬送人員の初診時の傷病程度をみると、28.7%（253人）が入院の必要のある中等症以上と診断されています。そのうち27人が重症以上と診断され、1人が死亡しています。



## 6 救急要請時の発生場所

救急要請時の発生場所別でみると、「住宅等」での発生が49.1%（433人）で最も多く、次いで「公衆（屋内）」が19.2%（169人）、「公衆（屋外）」が13.1%（115人）、「道路」が8.5%（75人）と続きます。



## 7 熱中症での救急搬送事例と予防のポイント

今年は、新型コロナウイルス感染症の感染予防のため、屋内外問わずマスクを着用することが多いと予想されます。マスクの着用によって熱がこもりやすくなりますので、例年以上に注意しましょう。

また、自宅などで過ごす時間が多いことで、身体が暑さに慣れる機会が少なくなっていると予想されます。暑さが本格化する前から、適度な運動をするなどして汗をかく習慣を身につけておきましょう。

### (1) 屋内で熱中症となった事例

- ◆ 起床時から全身の脱力感があり、様子を見るも症状が改善しない。

【7月 70歳代 熱中症疑い（中等症）】

- ◆ 窓を締め切った状態でエアコンをつけず、ぐったりとしていた。

【8月 80歳代 熱中症（中等症）】

#### 《予防のポイント》

気温とともに湿度が高いと、熱中症リスクが高まります。

- 喉が渇く前に、こまめに水分補給をしましょう。
- 窓を開け風通しを良くする他、エアコンや扇風機等を活用して室内温度を調整しましょう。
- ゆったりとした涼しい服装で過ごしましょう。

#### (2) 屋外で熱中症となった事例

- ◆ 草刈り作業中に全身のしびれとめまい。【6月 30歳代 熱中症（軽症）】
- ◆ 自宅敷地内の畑で倒れているところを発見。【7月 80歳代 熱中症（重症）】
- ◆ 屋外でジョギング中、急に倒れた。【8月 10歳代 熱中症（中等症）】
- ◆ 建築現場で作業中に全身のけいれん、嘔吐。【8月 30歳代 熱中症（軽症）】

#### 《予防のポイント》

屋外での作業や運動は、暑い時間帯を避けて行いましょう。

- 喉が渇く前に、こまめに水分補給をしましょう。
- 大量に汗をかいた時は塩分を補給しましょう。
- 屋外では帽子をかぶりましょう。
- その日の体調をよく見極めて、無理のない範囲で屋外活動をしましょう。

#### (3) 複数の熱中症患者が発生した事例

- ◆ 屋外グラウンドで体育の授業中に複数の生徒が体調不良を訴えた。  
【6月 10歳代 3人 熱中症（軽症）】
- ◆ 体育館で部活動中に複数の生徒が体調不良を訴えた。  
【7月 10歳代 3人 熱中症（軽症）】

#### 《予防のポイント》

部活動などで、複数の生徒が熱中症で救急搬送されるケースがあります。指導等は、その日の気温や湿度、生徒の体調等に配慮し、無理のない活動をしましょう。

- 指導者等は、計画的な休憩と水分補給をさせるとともに、体調の変化を見逃さないようにしましょう。
- 屋外では帽子をかぶりましょう。
- 自分自身で体調管理を行い、体調が良くない時は我慢せず休みましょう。

(4) 乳幼児が熱中症を発症した事例

◆ 親が車外にいる状況で、車内にいた子どもが鍵をかけてしまった。

【6月 1歳 熱中症疑い（軽症）】

※ 同様の事案他3件

《予防のポイント》

車内は、短時間で高温になります。

- 短時間であっても子どもを車内に残さないようにしましょう。
- 子どもが誤って車内から鍵をかけてしまい、閉じ込められる事故が発生しています。  
車を降りる際は鍵を持って降りましょう。